大地の公園・伊豆

文豪の小説や演歌の名作の舞台となった伊豆・天城山に源を発する狩野川は、伊豆半島を南から北へと流れる。本州の太平洋側の大きな河川としては極めて珍しい。半島がかつては南の海に沈む海底火山で、地球の表面を覆う岩板（プレート）に乗って徐々に北上し、本州に衝突して今の地形となった証しでもある。

温泉と山海の珍味、四季折々の花、豊かな自然。首都圏からも日帰り可能な国内屈指の観光地・伊豆にこの春、新たな〝勲章〟が加わった。貴重な地形、地質を有する自然公園「世界ジオパーク」に、国連教育科学文化機関（ユネスコ）から認定された。

海底火山から陸地が生まれ、本州への衝突後も火山活動を繰り返した伊豆半島には、地球のダイナミックな営みを刻む数多くの痕跡が残る。

海底火山の名残を示す海食洞や天窓が魅力的な景観を生んだ西伊豆・堂ケ島、下田の龍宮窟。陸上での火山活動が断崖絶壁の名勝をつくった熱海・錦ケ浦、伊東・城ケ崎海岸。おわんを伏せた形が美しいスコリア丘の伊東・大室山。溶岩の産物とも言える伊豆市の浄蓮の滝や河津町の河津七滝。富士の白雪が湧水となって市街地を潤す三島・楽寿園、清水町の柿田川…。

「ジオサイト」と呼ばれる地形・地質の見どころは半島各地に１００カ所以上もあり、その多くは古くから観光名所として来訪者を魅了してきた場所でもある。ジオパークは、多くが既に顕在化していたこの地域の「宝」に、地質、地学の学術面から再評価の光を当てた。

目を奪う景色の成り立ちを掘り下げて伝えることで、観光客の理解や興味は一層高まる。温泉や清流といった実感しやすい恵みへの関心も増す。教育の素材としても価値は高く、修学旅行や研修旅行の誘客も見込める。伊豆でも近年増加が著しい外国人観光客の間口を、さらに広げる手段にもなろう。ジオパークの活用に、地元から熱い期待が寄せられている。

静岡新聞社 編集局専任局長 論説副委員長・荻田雅宏

伊豆半島の代表的な「ジオサイト」の一つ、伊東市の城ケ崎海岸。中央奥に写るおわんを伏せた形の大室山からの溶岩流で形成された（静岡新聞社ヘリ「ジェリコ１号から撮影）